

2013年度の事業報告の概要

(1) 基本総括

法人格の移行問題や事業活動で経営に一定の影響をもたらす事態が発生したが、各部門の奮闘の中、法人運営や事業と経営は大きな打撃を受けることなく、1年を終えることが出来た。

なお、一昨年来から法人・事業所の1つの課題として提案してきた施設改修については、現時点では大規模な施設改修は断念した。判断・決断の遅さは反省すべきことである。

なお、法人形態変更後初となる公益財団法人JK Aに胃胸部併用デジタルX線検診車の整備申請をおこなったが、無事に年度末の3月下旬に交付通知を受け、検診車を更新できることになった。

(2) 年度重点目標の実施に関する事項について

(1)一般財団へ移行後も、公益法人として公益目的事業と定めた事業を引き続きすすめることが出来た。

①「働く人びとの健康の維持増進の相談・助言及びその啓発・知識の普及に関する事業」について
生活習慣病と職業病の早期発見・早期治療を行えるよう働きかけとし、受診勧奨の文書を1年間で総受診者数の18%にあたる10,134名に送付した。

厚労省の「腰痛予防対策指針の見直し」を受けて、医療・介護・運輸関係事業所が、その内容を理解し腰痛予防対策を積極的に進められるように法人労働安全衛生管理講習会を9月10日に開催した。滋賀医大北原先生を講師に42事業所81名の参加があり、大変好評であった。

建築国保ニュースに松田保健師が「生活習慣病と特定保健指導について」をテーマに7回の連載記事(10月から月1回)を担当し、建築労働者の健康づくりに貢献した。

まちかど健康相談会を6/25伏見イズミヤ店、10/29コープ桃山店、2/25コープ石田醍醐店でおこない、それぞれ56名、68名、56名の方に骨密度等の測定等と健康についてのアドバイスをおこなった。

②「労働災害の動向、労働生活復帰についての調査・研究・広報等に関する事業」について

三宅理事長が、全日本民医連の「民医連医療500号記念」の学術論文募集に研究論文「京都民医連における労働者健康問題のとりくみ45年 主に頸肩腕障害・背腰痛症と振動障害に関して」を応募し、佳作を受賞した。また、同論文は京都民医連「創立60周年記念論文募集」にも応募し最優秀賞を受賞した。

当事業所として初めて、真柄師長が日本人間ドック学会で「経口内視鏡における細径と通常径スコープ使用の受診者の受容性の比較検討」の演題発表をおこなった。

なお、法人広報紙は発行できなかった。

③「生活困窮者に対する無料・低額診療制度に関する事業」について

制度の活用は新規利用者13名を含む32名の方が310回、昨年比で約116.5%の活用であった。目標とした総受診者の1割の活用には届かず8.53%となった。健康診断受診後の治療を保障する活用は13名、そのうちタクシー関係が8名おられた。60歳以下での利用は16名、伏見区外では右京区や南区、宇治市・八幡市など16名の活用であった。福島原発事故で伏見区に避難されている方にも引き続き活用されている。

気になる患者さん訪問活動を今期も友会の役員さんと共に年6回おこない、医療的支援、地域での生活支援が必要かの確認や相談活動をすすめた。

なお、今期も警察から変死扱いでの孤独死に関する問い合わせが4件あった。健診を受けていたという情報からの問い合わせが2件、5年以上未受診となっていた患者さんなどであった。